

「武士道」に学ぶ技術者の倫理規範

清野 茂次

論説委員

オリエンタルコンサルタンツ相談役名誉会長

日本人が持っていた、高貴な精神文化を世界に紹介したのは、新渡戸稲造の名著「武士道」である。この著書は 1899 年(明治 32 年) 米国のフィラデルフィアで出版され、ほどなく日本語は当然のこと、主要各国語に翻訳されて、広く世界で愛読された。「武士道」の執筆をさかのぼること約 10 年、新渡戸がベルギーの著名な法学者ド・ラヴレー氏宅に滞在中、2 人の会話の中で「日本の学校教育で、宗教教育なしで、どうやって子供に道徳教育を授けるのか。」と問われた。しかし、新渡戸は答えることができなかった。

その後、新渡戸は熟慮分析の結果、自分の道徳意識は学校教育でなく、武士道によって育てられたことに気付いた。更に研究を重ね、キリスト教文化や西欧の歴史・文学とも対比した。新渡戸は内村鑑三との交親が厚く、熱心なクリスチャンでもあり、より客観的な観察をしている。武士道は日本の土壌・風土・文化に根ざし、何百年にも渉ってはぐくまれ、有機的に育った精神文化で、西洋の騎士道とは異なるものであると判断した。そのため著書の表題を日本語のまま「BUSHIDO」としたことにも、大きな特徴がある。また、「武士道は道徳史の上で、大英帝国の憲法がイギリスの政治史上で占めた地位と同じ地位を占めるものである。」といい、高い評価を受けた。

武士道の根源は、孔子、孟子、王陽明の教えにあり、また仏教、神学、儒教などと深くつながりを持っている。ここではその主要な教えのみを略記する。

「義」とは「人の正路なり」と言われ、人の道として「正しいこと」を言う。人間の社会には法律をこえた「正義の道理」すなわち節義、義理が存在する。義理は人間が作りあげた社会的約束事でもある。

「勇」とは「義を見てせざるは勇なきなり」と論語にあるとおり「正しいことをすること」である。勇は義と並ぶ武士道の双生児であって、義の心があっても勇気をもって行動しなければ事をなし得ない。真の勇気は大義の勇、平静さに裏打された勇気をいう。

「仁」とは愛、寛容、憐憫の情などであり、人の上に立つ者の必須条件である。義を男性的であるとするならば、仁は女性的な優しさで諭す力を備えている。特に権力をもつ者、強い立場の者は他者への惻隠の情と謙虚さを忘れてはならない。

「礼」とは他人に対する思いやりの心を目に見える形で表現することである。日本人は礼儀作法について厳しく躰をする。礼儀は慈愛と謙遜という動機から生じ、他人に対する優しい気持、そして優美な感受性として表われる。

「誠」とは「武士に二言なし」と言われるとおり、嘘をつかないこと、二枚舌であってはならないことである。真のサムライは「誠」に高い敬意を払うものであり、社会的地位の高い者にはより厳しい誠が求められる。

「名誉」は生れた門閥にあるのではなく、人は誰でも各自が生れながらにして貴きものを保有している。日本人が持つ恥の文化は人間の道徳意識の出発点であり、忍耐

と寛容と努力があって名誉につながると述べている。

以上の他、多くの学ぶべき記述があり、これらを着実に自己のものにし、一つひとつ実践することで、人間としてまた技術者としての倫理規範につながる。

土木学会を始めとして、多くの学協会では技術者の倫理規定を策定している。また、欧米の団体でも同類の規定が定められている。当然、行動規範としての規定やマニュアルは必要であるが、倫理は本来、人が幼少より身につけて成長し、守るべき人の道、道徳規範である。したがって、技術者はマニュアル類を理解していればよい、といった単純なものではない。そのことを十分に理解して、日々対応することが大切である。

特に土木技術者は有史以来、公共事業を中心にして、人間生活に必要なインフラ整備に関わり、公共の安全と環境の保全、国民の福祉のために貢献する責務を負ってきた。まさに、武士道の中でも述べているノーブル・オブリジェ（高い立場に立つ者はそれ相応の責任を負う）であり、土木技術者には立場と役割に応じた品格が求められている。我々の大先輩、青山士は「技術は人なり」の信念を貫き「人類ノ為メ、国ノ為メ」に生き、八田興一は今でも「台湾の農業の父」として畏敬されている。他にも偉大な先輩は多くいるが、まさに武士道の精神で生き、社会に貢献した土木技術者の代表と言える。

明治維新後の土木技術者は、官僚技術者を中心にして近年に至っている。戦後は社会システムの変遷と国際化にともない、民間の土木技術者が数多くなり、それぞれが重要な役割を担って活躍している。一方我々の技術者社会は歴史的な伝統もあり、発注者と受注者というタテ関係で結ばれてきた。一人ひとり善良な技術者であっても、組織や集団になると様々な問題を醸し出している。今ここで、産官学の土木技術者全員が原点に立ち戻り、温故知新、「武士道」と大先輩の生き方に学び、本来の日本人の心（DNA）を再生させ、一人ひとりが矜持を高め、自信を持って社会に貢献していかねばならない。